

令和5年度

事業報告

公益財団法人日本パラスポーツ協会

《 目 次 》

I 基本方針	1
II 令和5年度の具体的な施策	
ミッション1	2
ミッション2	9
ミッション3	12
ミッション4	23
ミッション5	25
ミッション6	28
その他	30

I. 基本方針

2021年3月に策定した「JPSA2030年ビジョン」に基づき、当協会がパラスポーツ振興の課題として認識している以下の4つの課題を解決することを基本的な考え方として、2030年に向けて「ミッション1」から「ミッション6」に掲げた「目標」、「主要施策」、「アクションプラン」としてまとめた施策を推進し、「活力ある共生社会の実現」を達成することを目指している。

- 1) パラスポーツの普及拡大のための環境整備
- 2) パラスポーツの競技力の向上と普及拡大との「好循環」を推進するための体制強化
- 3) 「好循環」を持続するためのパラスポーツの理解促進とファン拡大
- 4) パラスポーツの更なる発展に向けた日本パラスポーツ協会（JPSA）の万全な基盤づくり

本年度も JPSA 「2030年ビジョン」の実現に向けて、IIに掲げる具体的な施策を進めることができた。

パラスポーツの普及拡大では、行政や都道府県・指定都市のパラスポーツ協会などの関係団体と協力して、特別全国障害者スポーツ大会を鹿児島県で開催したほか、障がい者が日常的にスポーツに参加できる環境整備、指導者の養成・活用などの事業を進めた。

特に、スポーツ庁スポーツ審議会障害者スポーツ振興WGの中間まとめ（令和6年6月14日）を踏まえ、地域における障がい者のスポーツ活動の拠点となるパラスポーツセンターの全国展開に向けた在り方検討事業を行った。

また、競技力向上関係では、令和6年度にフランス・パリで開催されるパラリンピック競技大会に向けた選手強化活動を、引き続き、実施するとともに、競技成績に直結するクラス分けに関する国際動向を的確に把握し、情報提供や教育研修等を充実するためのクラス分け情報・研究拠点の設置に向けた準備を進めた。

国際パラリンピック委員会（IPC）総会やアジアパラリンピック委員会（AsPC）総会をはじめ、各種国際会議への参加・協力などによる国際機関との連携を図るとともに、国際組織への役員・委員ポストの獲得をサポートした。

IPC公認教材「I'mPOSSIBLE」日本版では、ICT化した授業で活用しやすい、アニメーション映像等を中心とした教材制作を進めるなど、教育を通じたパラリンピックムーブメントの普及・啓発を行った。

「好循環」を持続するためのパラスポーツの理解促進とファン拡大をホームページ等 SNS を活用し、パラスポーツの情報発信を行ったほか、ジャパンパラ競技大会では、各開催地のご協力により、小学生に観戦していただく機会を設けるなど、多くの人に観戦していただき、国民のパラスポーツに対する理解促進に努めた。

パラスポーツの更なる発展に向けた本協会の万全な基盤づくりでは、引き続きスポンサー企業との連携や寄附金の受入れなど、財政面の安定化を進めた。

II. 令和5年度の具体的な施策

ミッション1【パラスポーツの普及拡大の実現】

障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、ライフステージやニーズに応じて、身近な地域で日常的にスポーツを楽しめるような環境を整え、パラスポーツの普及拡大を実現に向けて事業を行った。

「1-1」パラスポーツの普及拡大の環境づくり

(1) 全国障害者スポーツ大会の発展

1) 全国障害者スポーツ大会（公益財団法人 JKA 補助事業）

会 期 令和5年10月28日（土）～30日（月）

開閉会式会場 白波スタジアム（県立鴨池陸上競技場）

愛 称 燃ゆる感動かごしま大会

スローガン 熱い鼓動 風は南から

2) 地区予選会（公益財団法人 JKA 補助事業）

会 期 令和5年4月～6月

内 容 ブロックごと（北海道・東北ブロック、関東ブロック、北信越・東海ブロック、近畿ブロック、中国・四国ブロック、九州ブロック）に身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者の団体競技について予選を実施。

3) 全国障害者スポーツ大会の内容充実

① 全国障害者スポーツ大会 大会委員会の開催

開催県からの大会報告による競技運営の課題等を受け、全国障害者スポーツ大会開催基準要綱の見直しや競技・種目の変更・施行時期の調整及び各種課題について当協会専門委員会の技術委員会と連携を図りながら協議した。

② 競技別技術指導員の派遣

実施競技の円滑な運営を図るため、各競技の専門的な知識と技術を有し、競技に精通した指導員を派遣し（14 競技 23 名）、本大会及びリハーサル大会における競技運営支援を行った。

③ 開催県等におけるパラスポーツの環境拡大

「大会ガイドブック」や「大会紹介映像」等の広報媒体を作成し、地域で開催されるパラスポーツの啓発事業等で配布、映写するなど広報活動を進めた。

④ 国民体育大会における全国障害者スポーツ大会の理解啓発ブースの出展

スポーツに関心を持った多くの方々が集う国民体育大会において、「障がい」や「障がい者のスポーツ」を“知ってもらう”機会をつくることを目的とした体験ブースを出展し、国民体育大会に引き続き開催される全国障害者スポーツ大会に向けた理解啓発を行った。

(2)身体運動の重要性の理解・促進

スポーツ・健康関係団体等と連携して、障がいのあるすべての人々にとって身体運動が重要であることを啓発した。

JPSA のホームページにおいて、障がい者の身体運動の重要性を発信、また、パラスポーツ協会やパラスポーツセンターと連携し、自宅等で気軽にできる運動、体操の映像配信やパラスポーツの競技紹介などの映像を配信した。

1)パラスポーツの映像制作・配信事業（JPSA 委託事業）

No.	受託団体名	事業名
1	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール	障害別スポーツ紹介動画

(3)学校でのパラスポーツ理解の環境づくり

学校においてパラスポーツを通した障がい者の理解促進を図る学習機会や特別支援学校・学級における体育授業の充実及びクラブ活動への参加促進がなされるような環境整備を支援するため、以下の施策を実施した。

→「1-2」公認パラスポーツ指導者の育成 参照

(4)スポーツ施設等のアクセシビリティの向上

障がい者が利用できるスポーツ施設や施設までのアクセスなどの情報提供をすることにより、障がい者が利用しやすい環境整備を支援する取り組みとして、日本スポーツ施設協会主催のスポーツ施設管理者のための障がい者対応講習会（オンライン講習）に協力し、障がい者が身近な地域において運動・スポーツに参加できる環境づくりを積極的に推進した。

(5)障がい者スポーツセンターの利用環境の充実

障がい者スポーツセンターと連携を深め、パラスポーツの振興体制を充実させるため、協会にパラスポーツセンター協議会を置き、連携事業を実施した。また、11月に神戸市において「全国障がい者スポーツセンター連絡協議会」を実施し、施設長会議や実務担当者会議において、各センターにおける課題の解決を図った。

1)地域のパラスポーツセンターの在り方検討事業（JPSA 委託事業）

現在、JPSA のパラスポーツセンター協議会に登録しているスポーツセンターは26施設であるが、未設置の道県および政令指定都市を対象に、今後、地域のパラスポーツ振興の拠点となるパラスポーツセンターの整備に向けて、地域の実情に応じた在り方を関係者で検討する事業を行った。

No.	受託団体名	事業名
1	静岡県	パラスポーツの聖地づくり推進事業
2	札幌市	障がい者スポーツセンターの運営体制に関する検討調査事業

2) 障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業（JPSA 委託事業）

地域におけるパラスポーツの拠点の一つであるパラスポーツセンターのスポーツ用具を充実させ、障がいのある方が運動・スポーツを始めるきっかけとなる体制を整備した。

No.	受託団体名	事業名
1	ふれあいランド岩手	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
2	群馬県立ふれあいスポーツプラザ	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
3	群馬県立ゆうあいピック記念温水プール	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
4	障害者スポーツ文化センター 横兵ラポール	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
5	新潟県障害者交流センター	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
6	長野県障がい者福祉センター サンアップル	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
7	名古屋市障害者スポーツセンター	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
8	滋賀県立障害者福祉センター	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
9	京都市障害者スポーツ協会	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
10	大阪府立障がい者交流促進センター ファインプラザ大阪	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
11	大阪府障がい者スポーツ協会	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
12	大阪市長居障がい者スポーツセンター	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
13	かがわ総合リハビリテーション福祉センター	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
14	高知県立障害者スポーツセンター	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
15	下関市障害者スポーツセンター	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
16	福岡市立障がい者スポーツセンター	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業
17	福岡市障がい者スポーツ協会	障がい者スポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業

(6) 総合型地域スポーツクラブの利用環境の充実

日本スポーツ協会と連携し、障がいの有無に関わらず、地域で気軽にスポーツに親しめる環境の充実に向けて、総合型地域スポーツクラブでの障がい者に対する支援体制の整備、拡充に向けた検討を行った。

「1-2」公認パラスポーツ指導者の育成

(1) スポーツ指導者数の拡大

1) 公認パラスポーツ指導者（以下「パラスポーツ指導者」という。）養成事業

各種指導者養成講習会の回数・内容の充実を図るとともに、指導者数の拡大のため、以下の講習会及び研修会を開催するほか、指導者養成講習会の実施団体の拡大などの検討を行った。

① 初級及び中級パラスポーツ指導員養成講習会の認定

都道府県・指定都市、県等パラスポーツ協会、その他関係機関が実施する初級及び中級パ

ラスポーツ指導員養成講習会の認定を行った。(令和6年3月末日現在)

- ・初級パラスポーツ指導員養成講習会 87件(内委託事業11件)
- ・中級パラスポーツ指導員養成講習会 7件(内委託事業2件)
 - ア) 初級パラスポーツ指導員対象 3件
 - イ) JSP0 公認指導者対象(都道府県主催) なし
 - ウ) 理学療法士対象(日本理学療法士協会主催) 4件

②パラスポーツ指導員等各種養成講習会の開催

JPSA が主催して行うパラスポーツを支える指導者の養成講習会及び専門性の高い有資格者の育成研修会を開催した

講習会名	開催期日	開催場所	修了者数
公認上級パラスポーツ指導員養成講習会	前期: 令和5年8月9日(水)~12日(土) 後期: 令和5年11月9日(木)~12日(日)	クローバープラザ(福岡県)	35名
公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(1)	前期 令和5年6月28日(水)~7月2日(日) 後期 令和6年1月31日(水)~2月4日(日)	京都市障害者スポーツセンター	38名
公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(2) ※日本スポーツ協会公認指導者対象	令和5年9月7日(水)~10日(日)	山梨県緑が丘スポーツ公園	31名
公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(3) ※学校教員(保健体育)対象	前期 令和5年8月21日(土)、22日(日) 後期 令和5年11月25日(土)、26日(日)	広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター・おりづる	18名
公認障パラスポーツコーチ養成講習会	前期 令和5年6月23日(金)~25日(日) 後期 令和5年12月15日(金)~17日(日)	味の素ナショナルトレーニングセンター・ウエスト	15名(合格者)
公認パラスポーツ医養成講習会	令和6年2月16日(金)~18日(日)	埼玉県障害者交流センター	56名
公認パラスポーツトレーナー養成講習会	一次 令和5年7月28日(金)~30日(日) 二次 令和6年1月25日(木)~28日(日)	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール	33名(合格者)

③資質向上のための研修事業

JPSA が主催して行うパラスポーツ指導者のレベルアップにつながる研修会を実施した。

講習会名	開催期日	開催場所	修了者数
全国障害者スポーツ大会 障害区分判定研修会	令和5年7月8日(土)・9日(日)	佐賀県勤労者総合福祉センター メートプラザ佐賀	57名
資格取得認定校研修会	令和5年8月23日(水)	オンライン開催	38校
第18回公認パラスポーツ指導者 全国研修会	令和5年12月9日(土)・10日(日)	東北工業大学 長町キャンパス (仙台市)	①125名 ②86名

④公認初級障がい者スポーツ指導員等養成講習会開催事業 (JPSA 委託事業)

県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツセンターに対し、公認初級・中級障がい者スポーツ指導員養成講習会や指導者の資質向上の研修会の開催を助成し、地域振興に欠かせない人材養成に積極的に取り組むための事業を推進した。

No.	団体名	事業区分	事業名
1	岩手県障がい者スポーツ協会	中②	令和5年度PTのための中級パラスポーツ指導員養成講習会
2	群馬県パラスポーツ協会	初①	令和5年度初級パラスポーツ指導員養成講習会
3	障害者スポーツ文化センター 横兵ラポール	ｽｷﾙ	パラスポーツ指導員定例研修会
4	岐阜県障害者スポーツ協会	初②	令和5年度初級パラスポーツ指導員養成講習会
5	三重県障がい者スポーツ協会	中②	令和5年度三重県中級パラスポーツ指導員養成講習会
6	大阪府障がい者スポーツ協会	初①	令和5年度 大阪府初級パラスポーツ指導員養成講習会
7	兵庫県障害者スポーツ協会	初①	第45回兵庫県パラスポーツ指導者養成講習会
8	神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター	初①	第41回初級パラスポーツ指導員養成講習会
9	和歌山県障害者スポーツ協会	初①	令和5年度和歌山県初級パラスポーツ指導員養成講習会
10	徳島県障がい者スポーツ協会	ｽｷﾙ	令和5年度公認パラスポーツ指導員スキルアップクリニック
11	島根県障害者スポーツ協会	初①	令和5年度島根県パラスポーツ指導員養成講習会
12	山口県パラスポーツ指導者協議会	ｽｷﾙ	令和5年度 山口県パラスポーツ指導者協議会研修会 「パラスポーツ指導者フォローアップ研修会」
13	佐賀県パラスポーツ協会	初①	令和5年度公認初級パラスポーツ指導員養成講習会(佐賀)
14	大分県障がい者スポーツ協会	初①	大分県パラスポーツ指導者(初級指導員)養成講習会
15	沖縄県障がい者スポーツ協会	初①	令和5年度公認初級パラスポーツ指導員養成講習会

2)公認パラスポーツ指導者の資格認定

当協会が認定した公認パラスポーツ指導員養成講習会の修了者や資格取得認定校(大学・短期大学及び専門学校)で所定の要件を満たした者などが資格申請した者の認定業務を行った。

(2)公認パラスポーツ指導者の育成

①公認中級・上級パラスポーツ指導員養成研修会

講習会名	開催期日	開催場所	修了者数
公認中級・上級パラスポーツ指導員養成研修会	令和6年2月10日(土)、11日(日)	海峡メッセ下関(山口県)	34名

②公認パラスポーツトレーナースキルアップ研修会

講習会名	開催期日	開催場所	修了者数
パラスポーツトレーナースキルアップ研修会 東京	令和5年9月23日(土)、24日(日)	東京都パラスポーツトレーニングセンター(東京都)	32名

「1-3」パラスポーツ振興に関する連携・協働

(1)競技団体への支援

JPSA 登録競技団体やパラアスリート等の充実した活動の実現に向けた支援の在り方及び登録競技団体の登録規程の在り方を検討した。さらに、パラリンピック競技団体の自立に向けた活動を目指し、今後の支援の在り方を検討した。

(2)日本スポーツ協会等との連携・協働

①指導者養成については、上記「1-2」公認障がい者スポーツ指導者の育成に掲げた養成事業等を通じて指導者の育成を図るとともに、健常者を中心に指導者養成を行っている日本スポーツ協会との連携を図り、実施した。

②都道府県におけるスポーツ関係団体の連携支援

→ミッション2「2-2」参照

③全国障害者スポーツ大会及び予選会などの各種競技大会を通じ、開催都道府県・市町村や地域の競技団体との連携・協働を密にし、パラスポーツの安全・安心に配慮した大会運営を行った。

④日本作業療法士協会との連携

障がい者の日常生活支援に大きな役割と専門性を有する作業療法士(OT)を養成・育成している日本作業療法士協会と連携・協力し、障がい者がより豊かで健康な生活を営むための支援拡大として、日常的な運動・レクリエーションおよびスポーツ分野からも関わることができる作業療法士を対象とした公認パラスポーツ指導者の養成・育成する体制構築をめざす。

試行として中級パラスポーツ指導員養成講習会を実施し、カリキュラム内容や実施方法について検証し、公認パラスポーツ指導者資格として制度化への検討を進めた。

「1-4」パラスポーツに関する調査・研究

(1)大学等との協働

大学や研究機関等と協働し、パラスポーツの普及・強化・啓発等に寄与する調査・研究を行った。

東京大学スポーツ先端科学連携研究機構と連携し、東京大学教養学部前期課程全学ゼミナールに対しての講師協力等を行った

(2)重度障がい者、高齢障がい者等のスポーツ参加に向けた調査・研究
本年度は調査を実施しなかった。

(3)公認障がい者スポーツ指導員実態調査
5年に一度の調査のため、本年度は実施しなかった。

ミッション2

【全国における行政、学校、関係諸団体等との強い連携・協働】

スポーツ施策の一元的推進体制の下、全国においてパラスポーツ振興の取り組みが継続的に推進できるよう、行政（スポーツと福祉）、学校、スポーツ団体、医療機関及び企業・関係諸団体等との強い連携・協働体制づくりを進めた。

「2-1」 県市等におけるパラスポーツ振興への支援

(1) 県市等でのスポーツ教室・大会・イベント開催の促進

県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、行政機関が協働し、パラスポーツ競技団体及び一般スポーツ競技団体など関係者と連携し、障がい者が気軽に参加できるスポーツ教室・大会・イベントの継続的な開催を促し、スポーツの日常化を進めた。

1) 地域におけるパラスポーツの振興事業等の内容充実（JPSA 委託事業）

障がい者が、身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる環境づくりを目指し、県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツ競技団体、パラスポーツセンターと連携して地域におけるパラスポーツ振興の課題解決のきっかけとなるよう次の事業を実施した。

事業は、公認パラスポーツ指導者やスポーツ、福祉、医療等の関係団体、学校等の教育機関との連携や協働を図りながら、障がい者向けのスポーツ教室やイベント等を実施する団体に対し助成した。（26 団体で実施）

No.	団体名	事業名称
1	岩手県障がい者スポーツ協会	当事者団体を中心とした多様な団体が共に創るパラスポーツ交流事業
2	宮城県障害者スポーツ協会	宮城県障害者スポーツ振興事業
3	兵庫県障害者スポーツ協会	パラスポーツ推進プロジェクト 2023HYOGO
4	和歌山県障害者スポーツ協会	みんな、おいで！！パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト
5	大分県障がい者スポーツ協会	パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業
6	鹿児島県パラスポーツ協会	鹿児島県パラスポーツ普及プロジェクト
7	沖縄県障がい者スポーツ協会	沖縄県における障がい者スポーツの振興事業
8	宮城県障害者スポーツ指導者協議会	ボッチャを活用したパラスポーツ振興事業
9	ひょうごパラスポーツ指導者協議会	地域と連携したユニバーサルスポーツの周知・啓発・理解事業
10	新潟県障害者交流センター	プロサッカーチームと協働したパラサッカーの普及事業
11	日本ソーシャルバスケットボール協会	精神障がい者バスケットボール推進事業 ソーシャルバスケットボールキャラバン 2023-2024
12	日本障害者カヌー協会	地域におけるパラカヌー普及振興事業

No,	団体名	事業名称
13	日本パラ・パワーリフティング 連盟	岡山オープン パラ・パワーリフティング大会
14	日本パラアイスホッケー協会	パラアイスホッケークラブチームにおけるアスリート育成支援事業
15	日本デフ陸上競技協会	障害児向けのデフ陸上教室とデフリンピック普及のための体験会及び、次世代アスリート育成の為に合宿開催
16	日本セーリング連盟	障害者セーリング普及推進事業
17	日本車いすバスケットボール連盟	JWB F 中長期計画推進プロジェクト ～未来プロジェクト～
18	日本パラフェンシング協会	地域におけるパラフェンシング振興事業
19	日本ソーシャルフットボール協会	ソーシャルフットボール日本代表全国キャラバン
20	日本パラ水泳連盟	日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会
21	日本ろう者サッカー協会	デフフットボール巡回指導及び指導人材の資質向上による次世代育成事業
22	日本車椅子ソフトボール協会	地域における車椅子ソフトボール振興事業
23	日本障害者スキー連盟	地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業
24	全日本柔道連盟	知的障がい者柔道紹介事業・体験会・練習会
25	日本ボッチャ協会	ボッチャを通じた地域スポーツ振興のための選手、指導者、競技役員育成事業～B チャレンジ～
26	日本卓球バレー連盟	卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業

(2) 県市等のパラスポーツ協会の組織運営の支援

1) 県市等パラスポーツ協会実態調査

5年に一度の調査のため、本年度は実施しなかった。

2) パラスポーツコーディネーター配置事業（モデル事業）

県市等のパラスポーツ協会(2協会)に、専任の「パラスポーツコーディネーター」を配置し、既存事業を遂行するだけでなく、協会およびコーディネーターが主体的に企画・運営し、行政機関をはじめとする関係団体等と協力・連携しながら、障がい者が気軽に運動・スポーツに取り組むための環境を整備することを支援した。

No.	受託団体名	事業名
1	宮城県障害者スポーツ協会	パラスポーツコーディネーター配置事業
2	広島県パラスポーツ協会	パラスポーツコーディネーター配置事業

(3) 県市等におけるパラスポーツ施策一元的推進体制への支援

ミッション2「2-2」(1) 参照

「2-2」 県市等におけるスポーツ関係団体間の連携の支援

(1) 県市等におけるスポーツ関係団体間の連携の支援

都道府県・指定都市行政、県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツセンターの4者によるパラスポーツブロック連絡協議会を8ブロックで実施し、各都道府県・指定都市におけるスポーツの施策一元化とその動向やコロナ禍での事業実施の工夫等、パラスポーツの地域振興体制の構築を進めるための情報交換や意見交換を行った。

No.	ブロック	日程	開催地	会場
1	九州	7/11 (火)	福岡県	クローバープラザ
2	東北	8/2 (水)	仙台市	宮城野体育館
3	中部東海	8/29 (火)	名古屋市	愛知県産業労働センター ウィンクあいち
4	中四国	9/11 (月)	岡山県	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
5	北信越	9/27 (水)	新潟県	アートホテル上越
6	近畿	11/7 (火)	大阪市	大阪市長居障がい者スポーツセンター
7	北海道	11/18 (土)	札幌市	北海道自治労会館
8	関東	1/17 (水)	茨城県	ザ・ヒロサワ・シティ会館 分館

ミッション3【競技力向上とパラアスリートの価値・魅力の向上】

世界で活躍できるパラアスリートの発掘・育成・強化、全国的・国際的な各種パラスポーツ競技大会の定期的開催などにより、競技力の向上とパラスポーツの価値・魅力の向上の実現に向けて事業を行った。

「3-1」 競技力の向上

(1)世界を目指すパラアスリートの活躍支援

JPC 加盟競技団体が行う基盤的強化活動を支援するため、医・科学・情報支援、タレント発掘支援、アスリート育成パスウェイの構築支援等を行った。また、各種国際総合競技大会に日本代表選手団を派遣し、日本代表選手が最高のパフォーマンスを発揮できるようにするための支援を行った。

1)基盤的強化活動

①競技団体が行う強化活動に対する助成

JSC から助成される JPC 加盟競技団体が実施する選手強化活動事業に対して、各競技のパラリンピック等の国際経大会への競技実績等(基礎配分)と重点強化指定競技団体(重点配分)を勘案し、加盟競技団体への助成金の配分を行った。

ア. 選手強化活動事業

競技団体の強化指定選手を対象とした国内外で実施する強化合宿及び海外へのチーム派遣、海外チームの招聘等に加え、計画的かつ継続的な選手強化等の事業に際して、AR や VR 等のデジタル技術を用いた選手強化活動やアスリートが現在実施している競技以外のスポーツ・トレーニングを実施する「クロストレーニング」を積極活用するパラリンピック競技団体を支援するなどの選手強化活動を行った。

クロストレーニングを行った競技は以下のとおり。

実施競技団体：3 団体が計 5 事業のクロストレーニングを実施

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. アルパンスキー×アイスホッケー | 2. アルパンスキー×ノルディックスキー |
| 3. 車いすバスケット女子×水泳 | 4. 車いすバスケット女子×射撃 |
| 5. トライアスロン×水泳 | |

イ. コーチ力強化事業

海外の優秀なコーチの招聘または海外へのコーチ派遣を行った。

ウ. 競技団体選手強化体制整備事業

競技団体における国際競技力向上のための強化活動に係る強化委員会等の会議の開催や競技大会の視察及びその他強化体制の整備を図るための事業

ア)アスリート委員会

JPC 及び加盟競技団体の組織運営にアスリートの声を反映するとともに、パラリンピックムーブメントをより強力に推進することを目的に、IPC/APC アスリート委員会の動向、競技団体のアスリート委員会設置状況の確認、アスリートキャリア研修会、資質向上のための研修会を行った。

第 1 回幹事会	令和 5 年 5 月 9 日 (火)	オンライン
第 2 回幹事会	令和 5 年 9 月 12 日 (火)	オンライン
第 1 回総会	令和 6 年 2 月 20 日 (火)	オンライン

イ)JPC 女性スポーツ委員会

女性アスリートの活躍を支援するために JPC 女性スポーツ委員会にて、相談窓口の設置及び研修会等を開催した。

○JPC 女性スポーツ委員会の実施

第1回 日時：令和5年7月14日(金) 場所：オンライン

第2回 日時：令和6年2月19日(月) 場所：オンライン

○JPC 女性スポーツ委員会 ジャパンパラ競技大会における相談窓口

《陸上》

日 時：令和5年6月10日(土) 10時～15時30分

6月11日(日) 10時～15時

場 所：岐阜メモリアルセンター長良川競技場

参加者：桜間副委員長、上出委員

(日本パラ陸上競技連盟(JPA)医事委員会と連携して設置)

相談人数：延べ9名(選手5名、保護者3名、役員1名)

《水泳》

日 時：令和5年9月16日(土) 10時～15時

場 所：横浜国際プール

参加者：桜間副委員長、鈴木委員

相談人数：延べ11名(選手6名、保護者4名、役員1名)

○ジャパンパラ競技大会におけるキッズルームの設置

大会に参加する選手・スタッフを対象に託児業務(事前申込制)

《陸上》

日 時：令和5年6月9日(金) 12～18時、10日(土)～11(日) 8時～18時

場 所：岐阜メモリアルセンター長良川競技場

利用者：大会スタッフより3名の申込(発熱のため1名キャンセル)、児童3名の利用

《ボッチャ》

日 時：令和5年8月19日(土)～20日(日) 8時～18時

場 所：駒沢オリンピック公園屋内競技場

利用者：大会スタッフより1名の申込、児童1名の利用

《水泳》

日 時：令和5年9月16日(土)～18日(日) 8時～18時

場 所：横浜国際プール

利用者：選手・スタッフより4名の申込、児童4名の利用

内 容：大会に参加する選手・スタッフを対象に託児業務(事前申込制)

○女性スポーツ連絡担当者会議の開催

日 時：令和6年3月8日(金) 13:45～14:30 ※合同会議 info 内で実施

場 所：ロイヤルパークホテル水天宮前とリモート開催

内 容：国際女性デー(3/8)にあわせて、パラスポーツにおける女性アスリートの強化現場における現状を理解いただき、JPC 女性スポーツ委員会の立場より女性パラアスリートが抱える課題解決に向けて情報発信を行う。

○女性アスリートへの身体的課題解決のためのオンライン個別相談

期 間：令和5年7月3日(月)～令和6年2月29日(木)までの間の希望日

対 象：令和5年度夏季・冬季パラリンピック実施競技団体、デフリンピック実施競技団体に所属する女性強化指定選手

○公認パラスポーツトレーナーに向けたアンケート調査報告

【調査概要】

目 的：パラスポーツトレーナーの方々の女性アスリートサポートの課題の把握、女性アスリートが抱える女性特有の課題への理解度を明確化し、JPC 女性スポーツ委員会が今後、支援に向けて取り組むべきこと、および競技力向上に向けた解決策を検討するため。

実施方法：対象者 Web アンケート（回答フォーム）にて、選択回答、自由記述回答後に送信する。

所要時間：10～15分程度

回答期間：令和5年12月11日（月）～令和6年1月15日（月）

※令和6年1月9日に回答フォームをクローズ

回 答 数：公認パラスポーツトレーナー242名へメール展開、回答46名

ウ)選手強化対策委員会の開催

○JPC 運営委員会

第1回：令和5年4月10日（月）

Virtus グローバルゲームズ日本代表選手団の決定/JPC クラス分けセンター（仮称）設置に向けた調査報告/ナショナルコーチ・スタッフ等設置事業の委嘱者

第2回：令和5年7月6日（木）

JPC 概要説明/バーミンガム 2023IBSA ワールドゲームズ日本代表選手団の決定/JPSA 定款変更報告及びJPC 加盟競技団体要項の一部改正/JPC 加盟審議/JPC クラス分け委員会の設置及び規程/国際総合競技大会/国際会議/国際協力/IPC 主催「2023 PARA SPORT 賞」候補者の推薦/令和5年度事業計画・進捗報告

第3回：令和5年9月6日（水）

杭州 2022 アジアパラ競技大会日本代表選手団の決定/国際総合競技大会/国際会議/令和5年度事業計画・進捗報告

第4回：令和5年12月6日（水）

愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会組織委員会挨拶/国際総合競技大会/国際会議/関係団体との連携/令和5年度事業計画・進捗報告

第5回：令和6年3月6日（水）

JPC アスリート委員会規程の変更、JPC クラス分け規程の承認、新規 JPC 加盟希望競技団体の承認、パリ 2024 パラリンピック日本代表選手団役員について、国際総合競技大会、国際会議、競技力向上事業、パラリンピック教育、広報・マーケティング、令和6年度事業計画

○JPC パリ 2024 特別強化委員会

東京 2020 パラリンピック競技大会での成果を一過性のものとして終わらせることなく、自国開催時のメダル獲得の水準を維持・向上させるため、パリ 2024 パラリンピック競技大会で金メダル獲得の可能性がある競技・選手に対して必要な強化環境の整備等、「選択と集中」による強化支援を行った。

第1回：令和5年9月7日（木）

第2回：令和6年3月11日（月）

○JPC 強化本部

JPC ビジョンを基に競技横断的に、あるいは障がい種別に、コーチ、情報科学、発掘育成、トレーナー、クラス分けの各専門領域の立場から競技団体の強化活動を支援し、各競技団体の組織力の底上げを図るとともに、JPC が行う事業（会議、研修会、日本代表選手団、競技力審査、JSC 競技力向上事業の計画性・実行性の評価、メダル目標設定、特別強化委員会、J-STAR プロジェクト等）に対する助言、協力を行った。

第1回：令和5年5月12日（金）

強化本部ミッション・計画/各領域活動報告/HPM 活動概要説明、その他

第2回：令和5年7月5日（水）

各領域活動報告/HPM との情報共有/JPSA 専門委員会等との連携について他

第3回：令和5年9月20日（水）

強化本部と HPMT の役割分担/各領域活動報告/HPM 情報共有/総合大会派遣、他

第4回：令和5年12月11日（月）

杭州 2022 アジアパラ競技大会視察報告、強化本部降級について他

第5回：令和6年1月10日（火）

杭州 2022 アジアパラ競技大会報告書について/次年度事業について、他

第6回：令和6年2月15日（木）

杭州 2022 アジアパラ競技大会報告書/HPMT セミナー研修会報告/その他

Ⅰ)強化活動実施状況の視察

JPC 強化本部委員による各種大会等（ジャパンパラ競技大会、J-STAR プロジェクト）の視察を行った。

Ⅱ)強豪国強化状況視察

アジアパラ競技大会にあわせて各専門委員が現地を視察し、他国の強化状況や日本の現状等について情報収集を行った。

Ⅱ. 感染症対策及び新生活様式での選手強化活動事業

感染症対策の徹底を図るための事業やリモートでの指導・トレーニングなど新たな選手強化活動

Ⅲ. 専任スタッフ等設置事業

ア)JPC ナショナルコーチ・スタッフ等設置事業

パラリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会で活躍が期待できる競技者を有する JPC 加盟競技団体及び当協会に、中長期強化戦略プランの作成を担うハイパフォーマンスディレクター（HPD）、ナショナルヘッドコーチ、ナショナルチームコーチ、ナショナルスタッフを設置し、競技団体の基盤強化、選手の育成・強化を効果的に推進した。また、JPC にはハイパフォーマンスマネージャー（HPM）とサービスマネージャー（SM）を設置し、各加盟競技団体の HPD 等と情報共有・相互連携することにより強化事業の効果的推進を図った。

※令和5年度：156名を委嘱

○JPC ハイパフォーマンスマネジメントチーム（HPMT）による活動

JPC に設置する HPM 及び SM を HPMT として、各競技団体に設置された HPD と年間を通じたコミュニケーションを行い、中長期的な強化戦略プランの計画・立案・策定を支援するとともに、強化戦略プランに基づく日常的な強化活動における課題解決に向けた助

言、知見の提供、人材の紹介等を行った。また、HPDの育成のためのシステム構築・研修を行った。

○ハイパフォーマンスマネジメントセミナー（すべてNTC・イーストで開催）

参加対象：パラリンピック実施競技団体スタッフ（HPD、HC、次世代担当コーチ）

- 期日とテーマ
- ① 令和5年 9月14日（木）コミュニケーション（第1回）
 - ② 令和5年 9月15日（金）情報の収集・整理（第1回）
 - ③ 令和5年 12月21日（木）情報の収集・整理（第2回）
 - ④ 令和6年 2月12日（月）コミュニケーション（第2回）

②医・科学・情報サポート事業

パラリンピック実施競技団体を対象に、日本代表選手の競技力強化のために、医・科学・情報面の支援及び体制構築を行った。

特に、選手のクラス分けに関して昨年度実施した競技団体及びパラアスリートへのアンケート、海外関連施設の視察や他国 NPC のクラス分けマネージャーへのインタビュー等の各種調査結果を踏まえ、国際的なクラス分けの動向を把握・分析し、国内競技団体のクラス分け活動の支援の中心的な役割を担う我が国における JPC クラス分け情報・研究拠点について、6年度からの設置および始動に向けた実務的な検討並びに調整や手続きを関係各所と進めた。

また、過去6年間行ったパラアスリートのフィジカルチェックのまとめを行うとともに、各専門領域の説明動画を作成し、JPCの資料室ページに掲載した。

③タレント発掘事業「ジャパン・ライジング・スタープロジェクト（J-STAR プロジェクト）」

将来のパラリンピック競技大会等で活躍する有望なアスリートを発掘し、競技団体の育成・強化コースへ導くことを目的として、全国各地でタレント発掘プログラム（測定会による参加者の選考）と発掘された参加者を対象とした検証プログラム（トレーニング合宿での検証）を実施した。JSC、JOC、JSP0 やパラリンピック競技団体、地域の関係団体等と連携し、各種プログラムを展開した。

■ 6期（令和4年度に発掘した有望者を令和5年度は検証を行う）

ア) 検証プログラムの実施

検証プログラムは20競技団体に委託し、66名が検証のための合宿・トレーニングに参加した。

■ 7期（令和5年度に発掘し、発掘された有望者の検証を行う）

イ) 発掘プログラムの実施

	開催地	日程	会場	申込	参加
1	秋田県	7/30(日)	秋田テルサ	15	12
2	広島県	8/6(日)	広島県立障害者リハビリテーションセンター・スポーツ交流センターおりづる	22	20
3	神奈川県	8/19(土)	神奈川県立スポーツセンター	45	36
4	札幌市	9/16(土)	北ガスアリーナ札幌46	21	18
5	高知県	9/23(土)	高知県立障害者スポーツセンター	14	14
6	京都府	11/12(日)	京都市障害者スポーツセンター	40	33

	開催地	日程	会場	申込	参加
7	静岡県	11/18(土)	静岡県草薙総合運動場体育館 (このはなアリーナ)	27	21
8	長野県	12/2(土)	長野県障がい者福祉センター「サンアップル」	21	14
9	鹿児島県	12/24(日)	鹿児島県障害者自立交流センター (ハートピアかごしま)	36	28
計				241	196

【申込み(締切)】241名(参考:昨年度エントリー249名)

イ) 検証プログラムの実施

検証プログラムは19競技団体に委託し、62名が検証のための合宿・トレーニングに参加した。

■ J-STAR プロジェクト修了生の活躍

・杭州アジアパラ競技大会にJ-STAR修了者・検証プログラム参加者から6競技18名が出場した(陸上競技、ボッチャ、カヌー、ゴールボール、ローイング、水泳)

④JPC 加盟団体アスリート育成パスウェイの構築支援

JPC 加盟競技団体を対象に、所属するアスリートが育成・強化等の段階を踏んでトップアスリートへと成長していくまでの道筋を示すとともに、それぞれのステージに応じた目標設定や強化支援を行う仕組み作りへの支援

2)国際総合競技大会への日本代表選手団の派遣、その他、アスリート等のための研修会の開催

○国際総合競技大会への日本代表選手団の派遣

ア) ヴィシー2023 Virtus グローバルゲームズ

大会期間 令和5年6月4日(日)~6月10日(土) (7日間)

開催地 フランス ヴィシー

主催 国際知的障がい者スポーツ連盟(VIRTUS)、大会組織委員会

参加国 43か国

実施競技 公式競技 12競技(前回:9競技) ※下線=日本出場

陸上競技・水泳・卓球・テニス・バスケットボール・フットサル・自転車競技・馬術・ボート・柔道・空手・テコンドー

デモンストレーション競技 1競技(ハンドボール)

日本代表選手団 74名(選手46名、スタッフ28名)

団 長:井上 明浩(日本パラスポーツ協会評議員、国立大学法人富山大学)

副団長:斎藤 利之(全日本知的障がい者スポーツ協会)

主 将:川口 穂菜美(陸上競技) ※やり投げ1位(世界新)

旗 手:大谷 春樹(自転車競技) ※距離2位、タイムトライアル2位

成 績 メダル獲得数:金12 銀14 銅13 計39個

特記事項 本大会の日本選手団派遣で初めて選手団本部スタッフにトレーナーを設置した

イ) スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ベルリン

大会期間 令和5年6月13日(日)~25日(土) (13日間)

開催地 ドイツ ベルリン

参加国 176か国・地域

実施競技 26 競技 ※下線=日本出場

陸上競技・自転車・ハンドボール・セーリング・バドミントン・馬術・フィールドホッケー・柔道・競泳・バスケットボール・サッカー・カヤック・卓球・ビーチバレーボール・フットサル・ゴルフ・オープンウォータースイミング・テニス・ボッチャ・体操・パワーリフティング・トライアスロン・ボウリング・新体操・ローラースケート・バレーボール

成績 メダル獲得数：金8 銀8 銅10 計26

特記事項 (1)フィールドホッケー、バスケットボール(3×3)が初めて採用された。
(2)トラディショナル(知的アスリートのみ)の競技が減り、ユニファイド形式(知的障がいのあるアスリートと知的障がいの無いアスリートがチームとなり一緒に競技を行う)の競技が前回大会に比べ1競技増えて16競技となった。

ウ) バーミンガム 2023 IBSA ワールドゲームズ

大会期間 令和5年8月18日(金)～8月27日(日) (10日間)

開催地 イギリス バーミンガム

主催 国際視覚障がい者スポーツ連盟 (IBSA)、大会組織委員会

参加国 64 国

実施競技 公式競技 10 競技 ※下線=日本出場

アーチェリー、チェス、クリケット、ブラインドフットボール、ロービジョンフットサル、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ショウダウン、ピンボウリング

オープン競技 1 競技 (テニス)

日本代表選手団 102 名 (選手・競技パートナー61 名、スタッフ41 名)

団 長：初瀬 勇輔 (JPC 運営委員会委員)

旗 手：佐野 優人 (ゴールボール男子)

成績 メダル獲得数：金1 銀4 銅3 計8

特記事項 (1)ブラインドフットボール男子、ゴールボール男子・女子はパリ2024予選会として開催され、ゴールボール男子がパリ2024出場権を獲得
(2)本大会の日本選手団派遣で初めて選手団本部スタッフにトレーナーを設置した

I) 杭州 2022 アジアパラ競技大会

大会期間 令和5年10月22日(日)～10月28日(土) (7日間)

開催地 中華人民共和国 杭州

主催 アジアパラリンピック委員会 (APC)

杭州 2022 アジアパラ競技大会組織委員会 (HAPGOC)

参加国 44 国・地域

実施競技 22 競技 ※下線=日本出場

アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、カヌー、チェス、自転車、ブラインドフットボール、ゴールボール、囲碁、柔道、ローンボウルズ、パワーリフティング、ローイング、射撃、シッティングバレーボール、水泳、卓球、テコンドー、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすテニス

日本代表選手団 430 名 (選手・競技パートナー267 名、スタッフ163 名)

団 長：井田朋宏 (日本パラリンピック委員会)

副団長(競技)：三井利仁(日本福祉大学)
々(総務)：與品美由紀(日本パラリンピック委員会)
主将：岩淵幸洋(卓球)
旗手：波田みか(シッティングバレーボール)

成績 メダル獲得数 金42 銀49 銅59 計150

特記事項 卓球、射撃、車いすテニスの3競技でパリ2024出場権を獲得

オ) 第20回冬季デフリンピック競技大会 ※全日本ろうあ連盟スポーツ委員会派遣

大会期間 令和6年3月2日(土)～3月12日(火)(11日間)

開催地 トルコ エルズルム

主催 国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)

第20回冬季デフリンピック競技大会組織委員会

参加国 (前回34か国)

実施競技 6競技 ※下線=日本出場 ★は今大会より導入

アルパンスキー、クロスカントリースキー、スノーボード、カーリング、
チェス、★フットサル

①指導者等の人材育成研修会

ミッション3「3-1」(1)1)オ、「3-3」(1)1)参照

ア.アスリート等のための研修会

JPC研修会事業の実施

JPCユースアスリート研修事業

パラリンピック実施競技団体(以下、パラ競技団体)で強化指定されて間もない選手を対象や競技別のユース対象大会への出場対象の選手に、研修会を通してアスリートとしての心構えや強くなるための知識等を習得し、将来国際大会で活躍するアスリートの育成を目的として実施した。今年度は集合して研修会を3回実施し、オンデマンド配信では計5つの講義を配信した。

対象(1)アジアユースパラや競技別の年代別大会に出場できる年齢の選手

(2)その他パラ競技団体から推薦がありJPC事務局が認めた選手

※(1)に該当しない競技団体は12歳～24歳の選手オンライン研修会日程

第1回：令和6年1月21日(土) 参加者17名 会場 NTC-E研修室A～C

第2回：令和6年2月17日(土) 参加者12名 会場 NTC-E研修室A～C

第3回：令和6年3月9日(土) 参加者18名 会場 NTC-E研修室A～C

内容 ①パラリンピックを通して人間力を高める ②目標設定の仕方

③パラリンピアン(鈴木選手(水泳)、唐澤選手、小林ガイドランナー(パラ陸上)、梶原選手(バドミントン)が各回を担当)

②競技団体の経営力を強化するための研修会

ミッション3「3-3」(1)参照

③インテグリティ向上研修会

ミッション3「3-3」(1)参照

④セカンドキャリア等のための研修会

ア.JPC研修会事業の実施

JPCアスリートキャリア研修会

「キャリアプランニング」をテーマに、個人・グループワークを通して参加者が自身の

持つ資質やスキルを再認識し、今後のキャリア形成の一助とすることを目的とする。

対 象 : JPC アスリート委員会委員

日 程 : 令和5年7月18日(火) オンライン

内 容 : 個人ワーク・グループワーク

講 師 : 山内 貴雄 氏 (一般社団法人アポロプロジェクト)

(2)強化環境の整備

ハイパフォーマンススポーツセンターの利用等に関する運営会議に参加するとともに、パラリンピック実施競技団体が計画的にナショナルトレーニングセンター(NTC)を利用できるように利用調整を行った。

(3)日本オリンピック委員会(JOC)等との連携強化

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団派遣及び運営に関する情報共有及び連携を行った。また、平成26年度よりJOCが実施・運営する「トップアスリートの就職支援ナビゲーション(アスナビ)」に参画することにより、パラアスリートが安心して競技に打ち込める環境改善が図られてきた。近年は民間企業等からパラアスリート向けの就労支援が提供される状況がみられるようになったことから、アスナビへの参画は令和5年度を以て終了することとした。

「3-2」日本での主要国際大会開催への協力

日本で開催する、愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会(以下、愛知・名古屋アジアパラ)及び、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025(以下、東京デフリンピック)の開催にあたり、各大会組織委員会が行う事業に参加・協力を行った。

愛知・名古屋アジアパラでは、令和5年10月3日に開催都市契約を締結、東京デフリンピックでは、令和5年11月22日に開催基本計画を発表した。

一方、招致活動を続けてきた北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック冬季競技大会は、国際オリンピック委員会(IOC)が、

2030年はフランス、34年は米国ソルトレークシティにそれぞれ候補地を一本化することを決定。北海道・札幌の可能性は事実上無くなり、招致動を停止した。

「3-3」競技団体・パラアスリートへのスポーツインテグリティの向上

(1)ガバナンス(団体統治)の強化とコンプライアンス(法律や倫理の遵守)徹底並びにインテグリティ(高潔性)の向上

スポーツ団体の適正なガバナンス(コンプライアンス及びインテグリティを含む)確保のための仕組みとして、スポーツ庁、JSC、JSP0、JOC及び当協会(JPSA)が緊密な連携の下で中央競技団体(NF)のガバナンス確保に取り組む体制を構築するため、各団体等の長からなる「スポーツ政策の推進に関する円卓会議」(円卓会議)を設置。JSP0、JOC、JPSAは、各加盟のNFを対象に、スポーツ庁が令和元年6月に策定した「スポーツ団体ガバナンスコード」に則り適合性審査を毎年実施(4年で全てのNFが受審)し、その審査結果とともに不祥事案は円卓会議で報告される。

1)今年度の実績状況

①対象団体

JPC 加盟 12 団体

②審査結果

全団体「適合」

2) JPSA 役職員向けの研修会、競技団体の経営力を強化するための研修会、及びアスリートのインテグリティ向上等のための研修会

① JPSA 役職員向け研修会

第 1 回 日時：令和 5 年 9 月 21 日（木） 13：30～15：00

内容：インテグリティとは？～インテグリティ全般に関する理解～

第 2 回 日時：令和 4 年 3 月 19 日（木） 15：30～17：00

内容：仮）公益財団法人としての業務におけるインテグリティ

② JPC インテグリティ研修会

パラリンピックや世界選手権などに日本代表選手として世界を舞台に戦う強化指定選手の資質・インテグリティ（誠実さ、真摯さ、高潔さ）を高め、自らやスポーツの価値を高める知識と手段、正しい倫理観を学び、併せて報道機関や SNS を通じて自身の姿や成果を社会に対して適切に発信することを学ぶことを目的とする。

対象 ・パラ実施競技団体：強化指定選手、育成／次世代強化指定選手（必須）

・パラ実施競技団体：チームスタッフ（コーチ、事務局スタッフなど）（必須）

・デフリンピック実施競技団体が指定する選手/スタッフ（オンデマンドのみ）

○オンライン研修会日程 講師：小塩 康祐氏（JPC 法務支援担当）

ア) 『ハラスメント事例と予防について』

*選手向け： ①第 1 回 令和 5 年 5 月 19 日(金) 256 名

②第 2 回 令和 5 年 7 月 8 日(土) 225 名

③第 3 回 令和 5 年 9 月 15 日(金) 153 名

*コーチ等向け：①第 1 回 令和 5 年 5 月 26 日(金) 180 名

②第 2 回 令和 5 年 7 月 22 日(土) 135 名

③第 3 回 令和 5 年 10 月 13 日(金) 206 名

*事務局スタッフ向け：①第 1 回 令和 5 年 7 月 21 日(水) 90 名

②第 2 回 令和 5 年 9 月 30 日(土) 36 名

イ) 『選手選考規定』*強化スタッフ・事務スタッフ対象

①第 1 回 令和 5 年 11 月 24 日(金) 206 名

②第 2 回 令和 5 年 12 月 16 日(土) 65 名

ウ) 『NF の権利活用』*強化スタッフ・事務スタッフ対象

①第 1 回 令和 6 年 1 月 24 日(金) 225 名

②第 2 回 令和 6 年 2 月 17 日(土) 120 名

エ) 『SNS の効果的な利用と注意』*選手・強化スタッフ・事務スタッフ対象

※オンデマンド映像にて配信 合計約 700 回の視聴

3) その他

法人格を取得していない団体に対しては、取得に対する指導を行うとともに、各 NF におけるパラアスリートからの相談窓口を設置できるよう指導を行った。相談窓口が未設置の団体に所属するパラアスリートや指導者等は当協会に設置している相談窓口を活用し、当協会の顧問弁護士に相談するなど解決に向けて支援した。

(2)アンチ・ドーピング活動の徹底

クリーンで公正なスポーツを守るため、日本アンチ・ドーピング機構や日本スポーツフェアネス推進機構との連携を図り、競技団体やアスリート及び関係者に対するアンチ・ドーピング活動に関する教育や研修を行うとともに、ドーピング検査活動に関する協力を行った。

アンチ・ドーピング体制の整備のため、これまで JPSA/JPC が JPC 加盟競技団体の代表として JADA*1へ加盟していたが、各 JPC 加盟競技団体の JADA への個別加盟を進めている。

また、2021Code 及び教育に関する国際基準等に則した国内の教育を実施するため、JADA 承認エデュケーターを配置し、杭州アジアパラの派遣前教育や、全国障害者スポーツ大会でのアウトリーチなどを行った。

*1JADA・・・日本アンチ・ドーピング機構

ミッション4【パラスポーツを通じた国際協力の推進】

パラスポーツに関わる国際的情報を収集するとともに、我が国の取り組みについて情報発信するため、国際機関との連携・交流を図った。また、国際スポーツ界の意思決定に積極的に参画するため、国際機関への日本人役員のポストを維持・拡大を目指すとともに、NFと連携し、国際競技団体（IF）で活躍できる人材の輩出などにより国際協力を推進した。

「4」国際協力

(1)国際役員としての活動を通じた世界のパラスポーツ発展への協力

1)国際組織との連携

ア) 国際統括組織との連携

IPCをはじめとする国際組織に加盟し、国際組織との連絡・調整、情報収集、意見交換を図るために参加する。また、他国パラリンピック委員会等、海外の組織との連携を強化するため、情報共有の機会を積極的に創出した。

1) 2023年6月 IBSA 臨時総会

会長、理事会の再選挙を行い、日本からは現職の松崎氏が財務担当理事に当選した。

2) 2023年9月 IPC 総会

ロシアおよびベラルーシ選手の中立的な選手としてのパリ 2024 パラリンピック競技大会への参加が可決された。

IPC オーダー受賞:山脇康氏

3)2023年11月 AsPC 総会

アジアンオーダー受賞：山脇康氏、麻生学氏

理事選挙：安岡由恵氏理事当選、三阪羊行氏アスリート委員会委員当選（委員長・理事）

4)2023年11月 Virtus 総会

オンライン開催（東京）

5)2023年12月 *⁹World Abilitysport 総会

*⁹World Abilitysport・・・旧 CPISRA/IWAS

イ) NPC との連携

カンボジアパラリンピック委員会、フィリピンパラリンピック委員会、チェコパラリンピック委員会、ギニアパラリンピック委員会、英国パラリンピック委員会の5つの NPC またドイツ連邦議会スポーツ委員会代表団、台湾 Normal 大学の来訪を受け、組織体制や選手強化に関連する情報収集及び提供を行った。

2)国際組織への役員・委員の輩出等

現在獲得している国際組織の役員のサポートを行った。

*²IPC 理事 マセソン美季氏 (2021～2025)

*²IPC アスリート委員 鈴木孝幸氏 (2021～2024)

*⁴IBSA 理事 松崎英吾氏 (2023～2024)

新たな国際組織への役員ポスト獲得のサポートを行い、次の役員ポストが獲得できた。

*³AsPC 理事 安岡由恵氏 (2023～2027)

*³AsPC 理事/アスリート委員会委員長 三阪羊行氏 (2023～2027)

*²IPC・・・国際パラリンピック委員会 *³APC・・・アジアパラリンピック委員会

*4IBSA・・・国際視覚障がい者スポーツ連盟

3)国際資格取得・更新講習会

当協会が制定する「公認障がい者スポーツ指導者制度」に基づく講習会以外に、各競技団体における指導者の養成及び資質向上のため、競技別指導者講習会 15 団体 18 事業の支援を行った。また、海外で開催されるクラス分け等国際資格取得・更新講習会の助成募集を行い、3 競技団体・4 事業の実施があった。

ミッション5【共生社会実現に向けた国民の意識改革の促進】

パラスポーツの理解促進を通じて共生社会実現に向けた国民の意識変革を促すよう以下の事業を行った。

「5」パラスポーツの理解促進及び広報

(1)パラスポーツ大会等の開催

①JPSA 主催ジャパンパラ競技大会

競技名	開催日	会場
陸上競技	令和5年6月10日(土)～11日(日)	岐阜メモリアルセンター長良川競技場 (岐阜県岐阜市)
ボッチャ	令和5年8月19日(土)～20日(日) ※参加国、日本・韓国	駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場 (東京都世田谷区)
水泳	令和5年9月16日(土)～18日(月・祝)	横浜国際プール (神奈川県横浜市)
車いすラグビー	令和6年1月25日(木)～28日(日) ※参加国、日本・ドイツ・ブラジル	千葉ポートアリーナ (千葉県千葉市)
アルペンスキー	令和6年2月29日(木)～3月3日(日)	白馬八方尾根スキー場 (長野県北安曇郡白馬村)
ゴールボール	令和6年3月15日(金)～16日(土) ※参加国、日本・イスラエル・韓国・フランス	横浜国際プール (神奈川県横浜市)

②パラリンピック競技：JPSA 主催・共催国際大会

ア) HULIC DAIHATSU Japan Para Badminton International 2023

開催日： 令和5年11月7日(火)～12日(日)

開催場所： 国立代々木競技場第一体育館(東京都渋谷区)

イ) 天皇杯 第49回日本車いすバスケットボール選手権大会

開催日： 令和6年2月3日(土)～4日(日)

開催場所： 東京体育館(東京都渋谷区)

③JPSA 共催大会

ア) 第33回かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン

開催日： 令和5年4月16日(日)

開催場所： 川口運動公園周辺(茨城県土浦市)

イ) 第42回大分国際車いすマラソン

開催日： 令和5年11月18日(土)～19日(日)

開催場所： 大分県大分市内

ウ) 皇后杯第32回日本女子車いすバスケットボール選手権大会

開催日： 令和5年8月5日(土)～6日(日)

開催場所： グリーンアリーナ神戸(兵庫県神戸市)

エ) 天皇盃第35回車いす駅伝競走大会

開催日： 令和6年3月9日(土)～10日(日)

開催場所： 京都市内(京都府)

オ) 文部科学大臣杯争奪第33回日本車いすツインバスケットボール選手権大会

開催日： 令和5年6月17日(土)～18日(日)

開催場所： 大浜だいしんアリーナ(大阪府堺市)

カ) KINOSHITA GROUP ITTF Japan Para Open 2023

開催日： 令和5年8月30日(水)～9月2日(土)

開催場所： 東京体育館(東京都渋谷区)

(2) 「パラスポーツ・共生社会推進月間」の展開

東京2020パラリンピック競技大会の開会式(8月24日)を記念日(パラリンピックデー)とし、この日を中心に8月をパラスポーツ・共生社会推進月間と位置付けた。

1) 東京都との共催・後援イベント

ア) 東京2020大会メモリアルデーイベント

日付： 令和5年7月23日(日)

場所： 国立競技場周辺

内容： ゴミ拾い、打ち水キャンペーン等

イ) TOKYO パラスポーツ FORWARD

日付： 令和5年8月24日(木)

場所： 東京都庁周辺

内容： 体験イベント等

2) JPSA オフィシャルパートナーによるイベント

ア) Parasports Day Forum2023

日付： 令和5年8月25日(金)

場所： 三菱商事ビルディング

内容： JPSA オフィシャルパートナー企業5社(富士通(株)、東京ガス(株)、みずほフィナンシャルグループ(株)、(株)モリサワ、三菱商事(株))によるパラアスリートのトークイベント

3) SNS を活用した発信

① JPSA では「#パラスポ共生月間」を付けてX(旧Twitter)を重点投稿。

② JPSA パートナー18社のX公式アカウントを改めてフォローをし、また、各社に対して、本件についてのXのフォロー、「#パラスポ共生月間」を付けた関連投稿の依頼を連絡するなど、SNSでの連携した取り組みを実施した。

(3) 『I'mPOSSIBLE (アイムポッシブル)』日本版の活用

既存教材をもとに、ICT化した授業で活用しやすい教材を制作し、活用のための促進を行った。また、『I'mPOSSIBLE』日本版公式サイトを新ドメインにて立ち上げ、『I'mPOSSIBLE』日本版アスリートアンバサダーを任命するなど、広報・普及活動を行った。

さらに、『I'mPOSSIBLE』日本版を使用することが共生社会理解につながっているかどうかを検証するための調査実施に向けて、調査の質問項目の検討を行った。

1) 教材改定

小学生版「1-5 パラリンピアンが学校に来るとしたら」および中学生・高校生版「1-5 パラリンピアンの日常からバリアフリーを考える」について、既存教材をもとに、ICT化した授業で活用しやすい、アニメーション映像等を中心とした教材を制作した。また、内

容を補足するための「+アルファ映像」をそれぞれに対して制作した。いずれも『I' mPOSSIBLE』日本版公式サイトより無償でダウンロード、または接続して使用できるようにした。

2) 広報・普及活動

① 『I' mPOSSIBLE』日本版公式サイト

従来 JPC サイト内に『I' mPOSSIBLE』日本版のホームページを設置していたが、JPC サイトとは別のドメインにて、新たに『I' mPOSSIBLE』日本版公式サイトを立ち上げた。内容についても一新。新教材搭載のタイミングで公開した。

② 教員研修

R5 年度は教材制作に注力したため、教員研修は2件のみ受け入れ、約 130 名の教師が参加オンラインで参加した。

③ 授業事例共有等

新しく制作した教材を使用した授業実施の様子を、映像で紹介するための動画を制作し、公式サイト上で公開した。

また、『I' mPOSSIBLE』日本版の教材の紹介動画を制作し、公式サイト上で公開した。

3) 企業・外部組織との連携

公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団の主催する「富山県共生スポーツ協議会」に参加し、『I' mPOSSIBLE』日本版の考え方を該当地域に伝えるための活動を開始した。

(4) 広報活動の充実

パラスポーツや共生社会に関する国民の理解促進を図るため、広報活動の充実を図った。具体的には①競技や協会事業等のパンフレット作成のほか、協会唯一の会報「NO Limit」内で身近な地域でのパラスポーツ情報を充実させること、②関係者だけでなく、どなたでもパラスポーツに関連した情報を得やすい、わかりやすいウェブサイトの運営継続 ③大会やイベント時の SNS 発信などタイムリーな広報展開などを意識した。また継続して、他のスポーツ関係団体ともリツイートやシェアなどの連携を行った。

(5) マスメディアとの連携

マスメディアとの一層の連携により、パラスポーツの露出に繋げるとともに、東京パラリンピック競技大会を契機に高まった世論の関心を維持・向上させるべく、JPSA・JPC のニュースリリース及び取材対応を丁寧に行い発信の充実を行った。

JPSA 理事会・評議員会及び JPC 運営委員会後のメディアブリーフィングを定例で開催した。

またコロナ後初の記者懇談会を開催し、各社へ JPSA 及び JPC の近況報告などを行った。

○JPSA/JPC 記者懇談会 2023 年 11 月 21 日(火) 10 社 23 名参加

①パラアスリートのドーピング検査について(競技会検査と協議会外検査の手順)

講師 日本アンチ・ドーピング機構 専務理事 浅川 伸 氏

②知的障がい者へのインタビューの仕方

講師 日本知的障害者水泳連盟 専務理事 谷口 裕美子氏

ミッション6【JPSAの万全な基盤づくりの実現】

JPSAの組織体制の強化や、財政基盤の充実・安定化により、パラスポーツの発展に向けた万全な基盤づくりを図った。

「6-1」財政基盤の充実・安定化

(1)活動資金の安定確保

パラスポーツの普及拡大や競技力の向上などに係る事業を継続的、かつ、安定的に実施するためには、財政基盤の充実・安定化が必要であり、国等との緊密な連携のもとに国庫補助金や民間助成金の充実・確保及び公的資金や民間資金を活用した活動資金の安定的な確保に努めた。

(2)企業のスポンサー制度の充実

パラスポーツの価値・魅力の向上とパラスポーツファンの拡大等の活動を通じて、JPSAビジョンの「活力ある共生社会の実現」をともに目指すパートナーとしての「JPSA オフィシャルパートナー」企業数の拡大に努めている（令和6年2月1日現在32社、サポーター9社）。

また、「パラリンピック日本代表選手団」の支援と「パラリンピックムーブメント推進」を目的として新設した「JPC スポンサーシップ制度」も推進している（令和6年2月1日現在7社）。

パートナー、スポンサーの拡大に向けて、様々な接点を活用して新規の打診も実施している。

○2023年度JPSAパートナーズミーティング（エグゼクティブ）

【エグゼクティブ向け】

令和6年2月7日（水）役員クラス 27社45名参加

特別講演「新たな価値の共創に向けて」

講演者 マセソン美季氏・及川晋平氏・河合純一 JPSA 常務理事

【ディレクター向け】

第1回令和5年6月20日（火）実務者クラス 29社52名参加

・講演 「パラスポーツのもつ価値（ボッチャ競技を通じて）」

講演者 日本ボッチャ協会 村上光輝氏

・企業取組紹介 富士通株式会社

第2回令和5年12月5日（火）実務者クラス 31社60名参加

・JPSA 常務理事就任メッセージ「パートナー企業の皆様との共創」

・企業取組紹介 サントリーホールディング 東日本旅客鉄道 企業5社連携イベント

○全国障害者スポーツ大会観戦プログラム

令和5年10月27日（金）～28日（土）

2社が参加し、開会式、フットソフトボール、卓球、サウンドトラックテーブルテニス、陸上競技等を視察。

(3)寄付金募集の拡充

パラスポーツの普及・振興のための寄付を実施するほか、パラリンピックメダリストへの報奨金をはじめ選手の育成・強化、パラリンピックムーブメントの促進等を目的とした事業への募金活動を行った。

「その他」 JPSA の組織体制の強化

(1) JPSA の業務遂行体制の見直し・強化

組織体制・諸規程等の見直しやデジタル化の推進など業務遂行ルールを改善することにより、協会を取り巻くステークホルダーからの信頼を高めるとともに、必要最小の人数で最大の効果を上げるべく業務の最適化を図る。

(2) 各専門委員会の効率的・効果的運営

各専門委員会（医学、技術、科学）や専門部会の下に設置している各部会の役割を必要に応じて適宜見直し、機能強化と効率的・効果的な運営を図る。

(3) 職員研修等の充実

職員の資質向上を図るため、ハラスメント防止等についての研修を行った。

→ミッション3

「3-3」 競技団体・パラアスリートへのスポーツインテグリティの向上参照

その他

1. 会議開催等

(1)理事会・評議員会等の開催

1) 評議員会

○定時評議員会

日時 令和5年6月28日(水) 13:30~15:30

議案 令和4年度決算報告書(案)について
定款の一部改正(案)について
理事改選に伴う候補者(案)について
監事改選に伴う候補者(案)について

○臨時評議員会

日時 令和5年12月13日(水) 13:30~15:30

議案 定款の一部改正(案)について

2) 理事会

○第1回定例理事会

日時 令和5年6月13日(火) 13:30~15:00

議案 令和4年度事業報告(案)について
令和4年度決算報告書(案)について
定款の一部改正(案)について
最高顧問及び理事改選に伴う候補者(案)について
監事改選に伴う候補者(案)について
日本パラリンピック委員会運営委員会の委員改選に伴う候補者(案)について
2023年度公益財団法人JKA競輪補助事業の交付申請(案)について
令和5年度定時評議員会の開催について

○臨時理事会

日時 令和5年6月28日(水) 16:10~16:40

議案 会長、常務理事の選定(案)について
常務理事の業務分担(案)について
コンプライアンス委員会委員(案)について

○第2回定例理事会

日時 令和5年9月13日(水) 13:30~15:00

議案 臨時評議員会の招集(案)について

○第3回定例理事会

日時 令和5年12月1日(金) 13:30~15:30

議案 定款の一部改正(案)について
評議員選定委員会の外部委員の選任(案)について

○臨時理事会(書面決議)

日時 令和6年1月23日(火)

議案 令和5年度スポーツガバナンスコード適合性審査結果について

○第4回定例理事会

日時 令和6年3月26日(火) 13:30~15:30

議案 令和6年度事業計画(案)について

3) 役員候補者等選定委員会

日時 令和5年5月31日(水) 17:00~18:00

議案 理事候補者の選定について
監事候補者の選定について

4) 評議員選定委員会

日時 令和5年5月26日(金) 13:30~15:00

議案 評議員の選定について

(2) 専門委員会(技術委員会・医学委員会・科学委員会)の開催

1) 技術委員会

日時 令和5年5月15日(月) 13:00~16:00

内容 令和5~6年度 技術委員会 新体制について
JPSAの取り組みについて(事業説明)
技術委員会3事業部会の活動計画について

2) 医学委員会

第1回 日時 令和5年6月16日(金) 19:00~21:00

内容 令和5年度に向けた体制について

第2回 日時 令和6年2月5日(月) 19:00~21:00

内容 NF チームドクターに向けた情報提供

第3回 日時 令和6年3月11日(月) 19:00~21:00

内容 各部会及び委員より令和5年度の活動報告
令和6年度に向けた体制について

3) 科学委員会

第1回 日時 令和6年2月29日(木) 16:00~17:00

内容 令和5年度の活動の振り返り

(3) コンプライアンス委員会の開催

日時 令和6年2月15日(木) 10:00~12:00

議題 JPSA 令和4年度、令和5年度(12月まで) 事業報告(利益相反)
規程改訂について
スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査結果報告

(4) 障がい者スポーツ指導者協議会運営委員会の開催

第1回 日時 令和5年5月17日(水) 13:00~16:00

内容 令和5年度 指導者協議会助成金交付について
公認パラスポーツ指導者全国研修会について
令和4年度公認障がい者スポーツ指導員実態調査について

第2回 日時 令和5年11月16日(木) 13:00~16:00

内容 令和5年度ブロック別指導者協議会等助成金交付について
各ブロック研修、地域特別研修 実施(案)内容について
第18回 公認パラスポーツ指導者全国研修会 進捗報告(第19回も含む)

令和5年度公認中級・上級パラスポーツ指導員育成研修会 進捗報告
令和4年度公認指導員実態調査結果の検証及び今後の取り組みについて
第3回 日時 令和6年3月7日(木) 16:00~19:00
内容 令和6年度指導者協議会の体制について
各ブロック・各事業部会 助成事業および経費の変更について
公認パラスポーツ指導者全国研修会開催について
中級・上級パラスポーツ指導員育成研修会の報告

(5)JPC 運営委員会の開催

※アクションプラン3-1参照

(6)令和5年度 JPSA 合同会議の開催

対象 パラスポーツ協会協議会、パラスポーツ指導者協議会、
パラスポーツ競技団体協議会、パラスポーツセンター

日時 令和6年3月8日(金) 11:00~15:30

(7)表章等

会長表章等(特別功労章、功労章、特別賞、感謝状)

パラリンピック特別賞

その他の顕彰